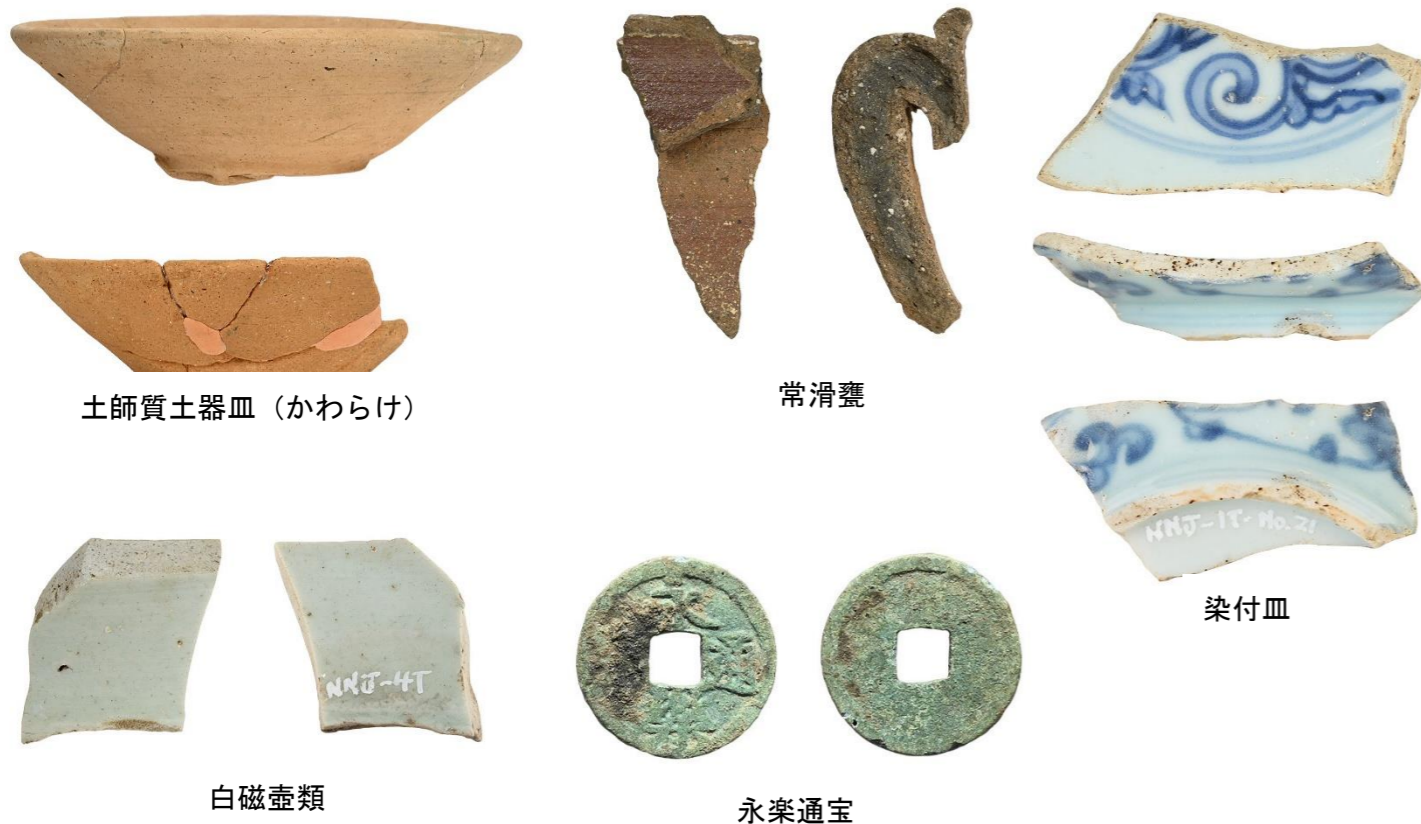


昨年の第1期調査では、地形測量をもとに一ノ曲輪の土塁の有無や平場での遺構の分布など土地全体の状況を把握することに努めました。その結果、戦国時代に大規模な造成と建物の建て替えを繰り返しながら、現在の姿になったことが明らかになりました。また、地中に残された遺構（建物跡や土坑、柱穴等）も多く、一ノ曲輪内では南部になるほどその密度は高くなっているようです。建物は同じ方向に向くようで、その重なりから数期にわたって作り変えが行われていたようです。さらに建物を構成するとみられる柱穴の底部からは、柱の沈下防止のための根石も確認されています。

4月から実施している第2期調査では、虎口（こぐち：出入り口）の有無を6, 7, 8 トレンチで、中央部の高まりについては9, 10, 11 トレンチで調査を進めています。それぞれの地点で大規模な土木工事が行われており、一ノ曲輪の各所に広く遺構が存在していることがわかってきました。また、中央部のトレンチからは整地層とそれに伴うピット等が確認され、中央部の高まりが城の構築時期に造成されたことが明らかになってきました。

―出土した遺物―



本市は、額田城跡において初めて確認調査を実施いたしました。その結果、多くの考古学的な成果を得ることができました。一方で、確認された遺構の性格や城としての範囲など多くの課題も見えてきました。

額田地区は、城跡を中心として古くからの街道、街並み、多くの寺社仏閣が歴史ある景観を構成しています。これらの景観は、他の地区には見られない貴重な財産であり、額田地区のまちづくりに欠かせない重要なものです。今後も地域の皆様と一緒に文化財の保存と整備、その活用を進めていきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2026(令和8)年5月16日

茨城県那珂市教育委員会生涯学習課（歴史民俗資料館）
 那珂市戸崎 428-2
 TEL 029-297-0080
 E-mail:rekishi-m@city.naka.lg.jp



額田城跡は那珂市額田南郷に所在し、北側に久慈川、南側には有ヶ池（現在は水田）を有した中世の城跡です。推定される城域は非常に広大で、茨城県内において最大級の平山城と考えられています。1998（平成10）年に町（旧那珂町）指定史跡となりました。築城は、鎌倉時代中期に佐竹氏の5代目義重の子義直が額田氏を名乗ったことが始まりとされています。しかし、額田氏は室町時代中頃、山入の乱という佐竹本家での相続問題を発端とした内乱に介入したことから、1423（応永30年）佐竹本家の攻撃を受けて滅亡しました。その後、額田城には佐竹氏家臣の小野崎通重が入りますが、戦国時代末期、豊臣政権のとの結びつきを深めた佐竹本家の攻撃を受け額田城は落城しました。近年発見された文書から、最後の城主小野崎昭通は、南下政策を進めていた伊達政宗と関係を進めていたことがわかっています。

那珂市は、2023（令和5）年から額田城の保存と整備を目的に一ノ曲輪、二ノ曲輪を中心に調査を実施しており、本年度は4年目になります。令和5, 6年度は測量調査を実施し、堀、土塁等の現況の記録及び周辺地形を調査しました。そして令和7年度から一ノ曲輪での確認調査を実施しています。

その結果、大規模な土木工事によって土塁や平場が作られたこと、平場には遺構が密に分布することなどがわかってきました。また、15～16世紀に位置付けられる在地産の皿（かわらけ）や愛知県産の常滑焼の甕、貿易でもたらされた磁器などが出土しています。特に中国景德鎮産の染付皿や白磁の皿類は、城主の力を知るうえで重要な発見です。

今回は、発掘調査の様子や成果、保存と整備を目的にした本市の取り組みなどを公開することといたしました。目の前に広がる大きな堀や土塁、貴重な出土遺物などから400年前の額田に思いをはせていただければ幸いです。





土塁の構築の様子：1 トレンチ



遺構の断面確認：2 トレンチ



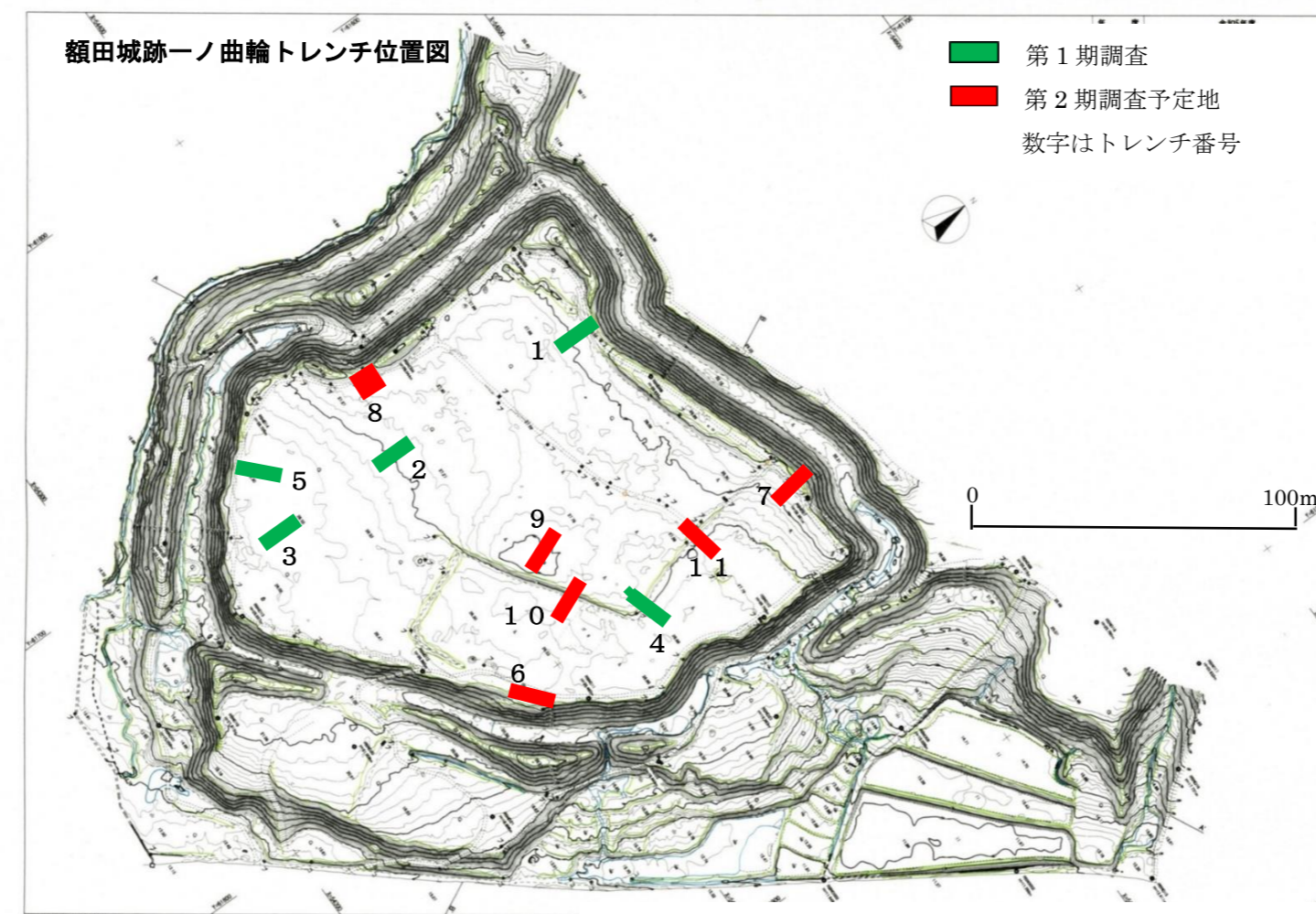
確認された柱穴と根石：3 トレンチ



遺構の確認状況：3 トレンチ



遺物出土の様子：3 トレンチ



額田城跡第一曲輪微地形測量図 測量 令和6年3月31日：(有)三井考測



整地面と遺構の確認：5 トレンチ



土塁とみられる土層：7 トレンチ



左 遺構の確認状況：6 トレンチ



右 整地面の確認状況：9 トレンチ



礫を含んだ硬化面のある土層：7 トレンチB